

第13回新潟県SSH生徒研究発表会 in ECHIGO-NAGAOKA に参加して

- ◇期 日:令和7年7月28日(月)
- ◇場 所:アオーレ長岡(新潟県長岡市)
- ◇参加者:3年生理数科学科 SS 発展探究 物理班生徒2名
- ◇引 率:探究教育部 高橋祐実先生



私たち SS 発展探究物理 1 班の代表 2 名は、第 13 回新潟県 SSH 生徒研究発表会 in ECHIGO-NAGAOKA に参加し、昨年度の SS 発展探究で研究した「ギネスカスケード ——泡のオーロラを求めて ——」の成果を発表しました。

午前中は途中からの参加となりましたが、他校のプレゼンテーション発表を聞きました。その中には英語で発表する班もあり、興味深い研究を英語で聞くという非常に貴重な経験ができました。また、発表の後に質疑応答を繰り返すことで研究に対する理解を深めることができました。

午後のポスター発表では、私たちも発表に参加しました。他県から参加したのが富山中部高校だけということもあってか、生徒も教員も含め多くの方に注目していただけました。また、その際に多くの質問や指摘をいただき、校外に行って発表をさせていただけたことのありがたさを感じました。加えて、発表が終わった後にも個人的に質問をくださる方や、フレンドリーに話しかけてくださる方がいらっしやって研究に対する熱心が伝わり、私たちにとってよい刺激となりました。



発表が終わった後の生徒交流会では、6 人 1 班となって共通の課題に取り組みました。今回の課題は紙と竹串のみで長く回る独楽を作ることでした。班の中でどのような独楽を作るか話し合い、全員で協力しながら独楽を作りました。この班は違う学校の生徒たちで構成されていたため、さまざまな人と交流することができました。結局私たちの独楽は 10 秒程度しか回りませんでした。1 位の班は 30 秒近く回っていたので衝撃を受けました。

このように他校の生徒とも交流でき、刺激となりうる貴重な機会をいただき、主催をしてくださった新潟県 SSH 事業対象校や関わってくださった方々に感謝の思いでいっぱいです。